

ワークショップ4

大学空白地における域学連携と 地域活性化

報告者

- 青木 滉人 氏 京丹後市 市長公室政策企画課 主事
井上 健吾 氏 一般社団法人まちの企画部 コーディネーター
杉岡 秀紀 氏 福知山公立大学 地域経営学部 准教授

コーディネーター

- 野村 実 氏 大谷大学 社会学部 講師

大学空白地における域学連携と地域活性化

コーディネーター

大谷大学 社会学部 講師 野村 実

○本ワークショップのねらい

いま改めて「地方創生」がさげられる中、また「地方創生 2.0」の起動が現政権の最重要課題の一つとして位置付けられている中で、大学にはどのような役割が求められているのだろうか。このワークショップでは、京都府北部地域等の「大学空白地」ともいえる大学のない／少ない地域において、大学がいかなる役割を果たすことができるのか、特に域学連携と地域活性化の観点から、京丹後市の「夢まち創り大学事業」に関わる方々や、主に京都府北部地域での地域連携に精通する大学研究者と一緒に考えていくことをねらいとした。またワークショップ形式での開催とすることで、教員・職員・学生その他の職域ごとの悩みや理想を対話の中で共有していくことも目的とした。

○報告の概要

第一報告では、京丹後市市長公室政策企画課・主事の青木滉人氏から「京丹後市夢まち創り大学とは」の題で話題提供をいただいた。青木氏は、大学時代に夢まち創り大学事業に参加したことを契機として、大学院修了後に京丹後市に移住、現在の京丹後市役所に就職している。そうした観点から、自らのゼミでの経験だけでなく、事業実施側としての課題についても詳細を語ってもらった。特にこの事業では、大学が京丹後市で活動する際に、大学と現地のバスの無料送迎や宿泊施設の提供を行っており、京都市内からの移動のハードルを下げていることがわかった。また課題としては、現在は大学のプロジェクト／ゼミ単位での活動であるが、個人単位での活動をどう創出するかという点や、成果の見えづらさをどう考えていくかという点が共有された。

第二報告では、一般社団法人まちの企画部・コーディネーターの井上健吾氏から「地域と大学の間立つジレンマ」の題で講演いただいた。井上氏は、東京や大阪での民間企業の勤務を経て京丹後市に移住し、現在はまちの企画部として、①高校生と地域との交流拠点（京丹後市委託事業）、②地域コーディネート業務（夢まち創り大学）、③事業開発支援業務などに携わっている。今回は主に②について、事業の伴走者としての立場から、大学と地域の間で生まれるギャップをいかに解消していくか、また現場での課題についても「ジレンマ」という視点から率直に共有してもらった。特に、大学としては活動の専門性や独自性を明確にしていくこと、他方で地域側も課題整理と優先順位をつけていくこと、そして中長期的視点として学生の入替わりが前提となったカリキュラム設計や、中長期の受け入れ体制づくりの必要性が提示された。

第三報告では、福知山公立大学地域経営学部・准教授の杉岡秀紀氏から「『大学のないまち』と大学との連携の実際」の題で、総論的な講演をしていただいた。杉岡氏からは、NPO や産官学での豊富な現場経験と知見をもとに、大学と地域との連携・協働の論点、また大学のミッションについても論点整理が行われた。

※報告の詳細については、各登壇者のスライド資料を参照いただきたい。

＜タイムスケジュール＞

- 14:00 趣旨説明 大谷大学社会学部 講師 野村 実
- 14:10 講演 1. 「京丹後市夢まち創り大学とは」
京丹後市市長公室政策企画課 主事 青木 滉人
- 14:25 講演 2. 「地域と大学の間立つジレンマ」
一般社団法人まちの企画部 コーディネーター 井上 健吾
- 14:40 講演 3. 「『大学のないまち』と大学との連携の実際」
福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡 秀紀
- 15:00 休憩
- 15:15 ワークショップ①「地域連携の理想」

15:45 ワークショップ②「地域連携の苦悩」

16:25 総括

○ワークショップの概要

講演ののちに休憩を挟み、後半では3グループでのワークショップが行われた。ワークショップ1では「地域連携の理想」として、職域をこえて自由闊達に「こういうことがしたい」という話題でアイデアを共有してもらった。各グループから出たアイデアとしては、報告でも言及されていた、学生個人での活動も可能にするような仕組みづくりのほか、大学と地域との対等な関係を構築していくこと、高校だけではなく小学校中学校とのシームレスな連携など、多彩な意見が出された。次にワークショップ2では、「理想」をふまえて、教員・職員・学生その他の職域に分かれ、「地域連携の苦悩」のお題で意見交換を行った。特にこのワークショップでは、それぞれの立場からみた地域連携その他における課題を共有したが、大学側の地域連携に対する理解の必要性や、手段と目的を丹念に確認する必要性が提示された。

最後に各グループからワークショップの内容を発表してもらったのち、登壇者からまとめのコメントを一言ずついただいて終了した。特に、地域と大学という二点間の連携だけではなく、その地域にある小中高などの教育機関や、その地域の企業などの多様なアクターとの面的な連携も有用ではないかという点は、今後の域学連携と地域活性化を考える上で重要な示唆の一つであるといえる。

事前の登壇者間の打ち合わせでも、特に地域連携の「理想」については語られていない／言語化されていない部分があるのではないかと、という意見が出されていたが、今回のワークショップでは前半部分でそうした部分を補完するとともに、後半部分では理想の実現に向けた課題を職域ごとに、本音で議論を行うという大変有益な時間となった。

また登壇者3名の講演についても、青木氏による各論的な話題提供、井上氏による個別事例の伴走者的な視点、杉岡氏による「大学のないまち」における地域連携の総論的な論点整理という、当ワークショップのテーマを網羅的かつ具体的に知る上で非常にバランスのとれた内容であった。講演後に質疑応答の時間はあえて設けなかったが、ワークショップの際に講演者に各テーブルを自由に回っていただくことで、参加者との対話の機会が形成されていた点も、今回のワークショップの特徴の一つといえる。

あらためて登壇者3名の皆様と、全国各地からご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。このワークショップでの議論と対話の内容が、今後の（とりわけ大学のないまちにおける）域学連携と地域活性化に少しでも寄与することができれば幸甚である。

スライド1



スライド2



スライド3

自己紹介



青木 滉人
あおき ひろと

- 年齢：27歳 入庁3年目
- 出身：滋賀県草津市

3

スライド4

大学



地元の方と米作り

- 龍谷大学政策学部 今里ゼミ（夢まち創り大学）
- 「宇川」で毎月合宿
- 米作りや観光動画作成
- 「京丹後」や「地域」に興味を持つ

4

スライド5

大学院



観光パンフレット制作



朝市「宇川金曜市」の運営

- 仕事（宇川）と大学院（京都市）の2拠点生活
金土日は宇川、月火水木は大学院
- 朝市の運営、移動販売、SNS広報を担当
- 修論「新しい地域コミュニティの形成・運営における課題と展望：京丹後市を事例として」

5

スライド6



スライド1

地域と大学の間立つジレンマ

一般社団法人まちの企画部 井上健吾

2025年3月2日 第30回 FD・SDフォーラム 大学空白地における域学連携と地域活性化

スライド2

自己紹介

いのうえけんご
井上健吾 (34)

1990年生まれ 茨城県鹿嶋市出身
京丹後市弥栄町在住
妻・4才児・0才児の4人家族

京都 ▶ 東京 ▶ 大阪 ▶ 京丹後

・大学進学

・まほろバ

・広告マーケゼミ

・ITベンチャー

・東京転勤

・鬱る

・転勤

・悶々とする

・日本酒づくり

・移住!

・有機農業5年

・フリーランス

スライド3

一般社団法人まちの企画部

すべての人が主体的にたのしく働けるまちを目指して、
公益的な事業を中心に企画・運営を行っています。

<p>〈事業〉</p> <p>(1) 高校生と地域との交流拠点 (京丹後市長託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の居場所づくり (やってみようカード等) ・ 相談支援業務 (連絡・総合探究等) ・ 伴走支援業務 (高校生のプロジェクト等) <p>(2) 地域コーディネート業務 (京丹後市まち創り大学委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりのフィールドワークのサポート ・ 地域のニーズと大学生の学びとの調整業務 ・ 行政と連携した事務局運営 <p>(3) 事業開発支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉事業者の事業開発の伴走支援等 	<p>社名 一般社団法人まちの企画部</p> <p>設立 2023年2月</p> <p>場所 京都府京丹後市峰山町杉谷843</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <div>京丹後市未来チャレンジ交流センター roots 企画運営</div> <div>京丹後市まち創り大学 地域コーディネート業務</div> </div>
---	---

スライド4

コーディネート業務について

大学
(受入れてくれるかな。)

一般社団法人
まちの企画部

大学と地域の間立つ
連携を円滑に進める

地域
(大学生こわい。)

授業内容や目的の把握

地域状況の共有とすり合わせ

フィールドワーク企画支援

地域の現状や課題の整理

授業方針の共有とすり合わせ

受入サポート

スライド5

地域と大学の間で生まれるギャップ

10年前

感謝めっちゃされる!
面白い体験できた!
地元の人たち優しい!

若者が来てにぎやか!
神輿かついてくれた!
農作業手伝ってくれた!

来てくれるだけで
価値ある関係

現在

なにをしたら良い?
動いてくれない...
地域変える気ない?

遊びに来たの!?
自分たちの活動だけ?
せっかく始まったのに...

成果が出ないと
続けるのが厳しい

スライド6

地域と大学のジレンマ

授業：学び

- ・ 学生や教授に有益な経験
- ・ 学びながら失敗もする
- ・ 学生生活に限った活動

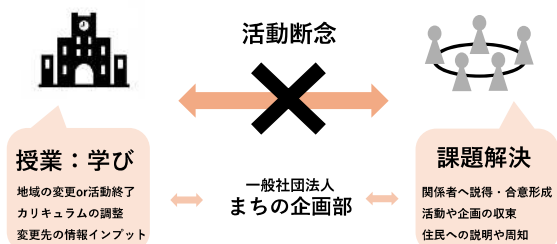
課題解決

- ・ 少子高齢化で受入が大量
- ・ 課題が複雑(仕事/福祉/教育等)
- ・ 目の前のことで精一杯

地域の急速な衰退がギャップを深めている

スライド7

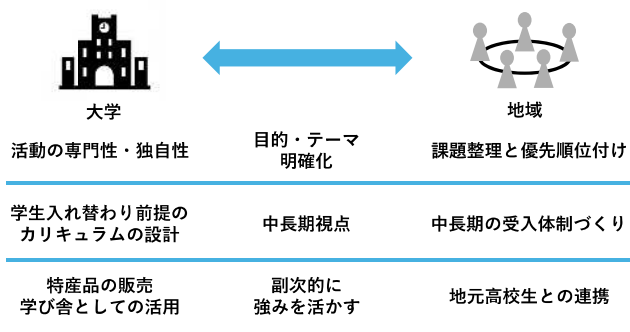
地域と大学のジレンマ



双方の要件すり合わせだけでの解決が困難
照準を絞った域学連携が必要

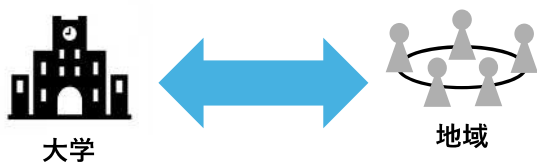
スライド8

照準を絞った域学連携



スライド9

ご清聴ありがとうございました



より良い大学と地域の連携
色々ご意見聞かせてください 🙋

スライド1

第30回FD・SDフォーラム
大学空白地における域学連携と地域活性化 2025年3月2日資料

「大学のないまち」と大学との連携の実際

- はじめに
- 大学と地域との連携の実際
- 大学のないまちとの連携事例
- おわりに

杉岡 秀紀
福知山公立大学地域経営学部准教授
大学コンソーシアム京都高大大連携推進室員(コーディネーター)
産学連携学会地域連携教育研究会代表

スライド2

2019年度 第21回FDフォーラム

大学教育を再考する

～イマドキから見えるカタチ～

2019年 3月5日(土)・6日(日) 京都外国語大学

1日 4時30分～5時30分 2日 1時～2時

2

スライド3

【自己紹介】

- 2003年 同志社大学経済学部卒業
- 2003年 まちづくりNPOきゅうたなべ倶楽部 主宰(代表)【NPO】
- 2004年 株式会社GIZA入社【産】
- 2007年 同大学院総合政策科学研究科 博士前期課程修了
内閣官房行政改革推進本部事務局 参事官付(～2008年)【公】
- 2009年 同志社大学院総合政策科学研究科 博士後期課程中途退学
(一財)地域公共人材開発機構 事務局総括(～2012年)【NPO】
同志社大学政策学部 嘱託講師(～2014年)【学】
- 2012年～ 京都府立大学公共政策学部 講師【学】
同 地域連携副センター長(～2016年)
同 京都政策研究センター企画調整MGR(～2016年)
- 2016年～ 福知山公立大学地域経営学部 准教授【学】
同 北近畿地域連携センター長(2019年～2020年)
同 北近畿地域連携市民学習部長(2020～2022年)
- 2017年～ 島根県立大学総合(地域)政策学部非常勤講師【学】
- 2021年～ 大阪公立大学大学院都市経営研究科非常勤講師(兼職)【学】
公立大学協会 全国公立大学学生大会企画チーム専門委員

スライド4

1. はじめに

【きゅうたなべ倶楽部(1)】

〇ミッション(目的)

「京田辺というまちを“住み心地の良いまち”から“住み応えのあるまち”へ、“大学のあるまち”から“大学のまち”へ変え、挨拶と笑顔、そしてありがたいの溢れるまちにすること」

↓

「University」から「Univercity」へ

4

スライド5

1. はじめに

【きゅうたなべ倶楽部(2)】

5

スライド6

【主な著書】

- 『地域再生の政策学』(共著/ミネルヴァ書房/2010年)
- 『地域貢献としての大学シンクタンク』(編著/公人の友社/2013年)
- 『地域公共人材をつくる』(共著/法律文化社/2013年)
- 『地方自治を問なおす』(共著/法律文化社/2014年)
- 『もう一つの自治体行革』(編著/公人の友社/2014年)
- 『持続可能な地域実現と大学の役割』(共著/日本評論社/2014年)
- 『地域力再生とプロボノ』(編著/公人の友社/2015年)
- 『地域創生の最前線』(編著/公人の友社/2016年)
- 『自治体政策への提言』(共著/北樹出版/2016年)
- 『「みんな」でつくる地域の未来』(共著/公人の友社/2017年)
- 『合併しなかった自治体の実際』(編著/公人の友社/2017年)
- 『現場から見た「子どもの貧困」対策』(共著/公人の友社/2018年)
- 『NPO最善線』(共著/京都新聞出版/2018年)
- 『自治・分権と地域行政』(共著/声書房/2020年)
- 『これからの話し合いを考えよう』(共著/ひつじ書房/2021年)
- 『公務員試験制度の新潮流(仮題)』(共著/声書房/2025年)

スライド7

【所属学会】

- ・自治体学会(評議員・理事、企画部会長、近畿自治体学会運営委員)
- ・産学連携学会(学術誌委員会委員、関西・中四国支部幹事、地域連携教育研究会代表)
- ・日本協働政策学会(理事、2015年度・2017年度開催校責任者)
- ・日本公共政策学会(2015年度研究大会実行委員、2020~2021年度研究大会実行委員)
- ・日本地域政策学会(2020~2024編集委員、2024大会実行委員)
- ・日本NPO学会(2023年度第25回研究大会企画委員)
- ・日本オンブズマン学会(2016企画委員・開催校責任者)
- ・日本地域(地方)政治学会(現代政治コンペ審査委員長2016)
- ・コミュニティ政策学会ほか

スライド8

【高校との繋がり】

- ・(一財)大学コンソーシアム京都市高次連携推進室員
- ・京都府教育委員会WWLコンソーシアム支援事業ALネットワーク京都運営委員
- ・府立高校の在り方ビジョンの策定に係る検討会議委員
- ・京都府立福知山高等学校学校運営協議会長、「みらい学I」特別講義ゲスト講師
- ・同 鳥羽高校SGH「イノベーション探求」講師・成果報告会コメンテーター
- ・同 宮津天橋高等学校学校運営協議会会長・ゲスト講師・成果報告会コメンテーター
- ・同 峰山高校「いさご探求(総探)」成果報告会コメンテーター
- ・同 丹後緑風高校丹後活性化プレゼンテーション大会コメンテーター
- ・同 大江高校ゲスト講師
- ・同 東舞鶴高校(定時制)ゲスト講師
- ・聖ヨゼフ日星高校「新時代に対応した高校改革推進事業」運営指導委員会委員長、同コンソーシアム委員、ゲスト講師
- ・兵庫県立柏原高校「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」運営指導委員会委員(委員長)・普通科改革推進事業(副委員長)・学校運営協議会委員・特別非常勤講師
- ・同 生野高校 同上 運営指導委員会委員(副委員長)・特別非常勤講師
- ・同 佐用高校コンソーシアム委員、総合的な探究の時間コメンテーター
- ・同 篠山産業高校総合的な探究の時間発表会コメンテーター
- ・同 姫路飾西高校総合的な探究の時間発表会コメンテーター
- ・丹波ミライプロジェクト(丹波市議会・柏原高校・氷上高校・氷上西高校)コーディネーター 8
- ・岡山県立林野高校地域連携協議会委員等

スライド9

2. 大学と地域との連携について

【中教審「我が国の高等教育の将来像」(2005年)】

大学は、全体として 1. 世界的研究・教育拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 総合的教養教育、5. 特定の専門的分野(芸術、体育等)の教育・研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点、7. 社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)等の各種の機能を併有するが、各大学ごとの選択により、保有する機能や比重の置き方は異なる。

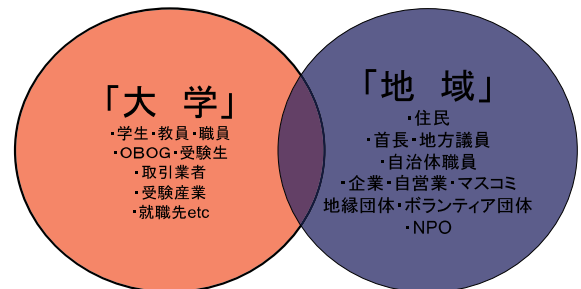
杉岡秀紀(福知山公立大学)

9

スライド10

2. 大学と地域との連携について

【大学と地域との連携・協働】



杉岡秀紀(福知山公立大学)

10

スライド11

2. 大学と地域との連携について

【教育基本法の改正(2006年)】

第7条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

2 大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。

杉岡秀紀(福知山公立大学)

11

スライド12

2. 大学と地域との連携について

【学校教育法の改正(2007年)】

第83条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

2 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

↓
教育研究成果の社会への提供が
大学の基本的役割

杉岡秀紀(福知山公立大学)

12

2. 大学と地域との連携について

【大学のミッション】

大学の使命

教育 研究
社会貢献

13

2. 大学と地域との連携について

【大学と地域との連携の実際】

連携の実際	割合
A 公開講座を実施すること	86.8%
B 生涯学習や教育の最新動向等について情報発信すること	46.2%
C 社会人入学者を受け入れること	74.3%
D 地域人材を養成すること(地域リーダー養成 など)	31.4%
E 正規授業を一般公開すること(公開授業など)	32.2%
F 学生の社会貢献活動を推進すること	63.5%
G 地域活性化のためのプログラムを開発・提供すること	36.5%
H 教員を外部での講座講師や助産者、各種委員として派遣すること	76.0%
I 施設等を開放し、地域住民の学習拠点とすること	57.2%
J 地域ニーズの把握のため、地域(自治体等)との話し合いの場(会議体等)を設けること	41.8%

文部科学省「開かれた大学づくりに関する調査」(2011)

2. 大学と地域との連携について **大学(教員)主体!**

【大学と地域との連携メニュー(1)】

メニュー	大学 主体	教員 主体	学生 主体
①公開講座を実施すること	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②生涯学習や教育の最新動向等について情報発信すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③社会人入学者を受け入れること	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④地域人材を養成すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤正規授業を一般公開すること(公開授業等)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥学生の社会貢献活動を推進すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
⑦地域活性化のためのプログラムを開発・提供すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧教員を外部での講座講師や各種委員として派遣すること	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨施設等を開放し、地域住民の学習拠点とすること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩地域ニーズの把握のため、地域(自治体等)との話し合いの場(会議体等)を設けること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(出所) 文部科学省「開かれた大学づくりに関する調査」より筆者追加・修正 (2018)

2. 大学と地域との連携について

【大学と地域との連携メニュー(2)】

連携メニュー	割合
公開講座を実施すること (n=427)	87.0%
生涯学習や教育の最新動向等について情報発信すること (n=394)	46.2%
社会人入学者を受け入れること (n=382)	74.3%
地域人材を養成すること(地域リーダー養成など) (n=170)	31.4%
正規授業を一般公開すること(公開授業等) (n=384)	32.2%
学生の社会貢献活動を推進すること (n=353)	63.5%
地域活性化のためのプログラムを開発・提供すること (n=312)	36.5%
教員を外部での講座講師や助産者、各種委員として派遣すること (n=533)	76.0%
施設等を開放し、地域住民の学習拠点とすること (n=428)	57.2%
地域ニーズの把握のため、地域(自治体等)との話し合いの場(会議体等)を設けること (n=431)	41.8%
多様なメディアを活用し、大学の最新コンテンツなどを発信すること (n=414)	37.6%
講座等の生涯学習に関する取組を実施すること (n=17)	5.7%

(出所) 文部科学省(2018)『平成29年度 開かれた大学づくりに関する調査研究』

2. 大学と地域との連携について

【よそ者効果】

- (1) 地域の再発見効果
- (2) 誇りの涵養効果
- (3) 知識移転効果
- (4) 地域の変容を促進
- (5) しがらみのない立場

(出所) 敷田麻美(2009)「よそ者と地域づくりにおけるその役割に関する研究」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』9、北海道大学

17

2. 大学と地域との連携について

(参考) 公立大学の地域貢献機能

(出所) 公立大学協会ホームページ(<http://www.kodaiyo.org/>)

2. 大学と地域との連携について

	サスティナブル	クリエイト
地域からの要請型	Assure 地域のいのちを守る	Enhance 地域の財産を発展させる
大学からの提案型	Link 地域の価値をつなげる	Develop 地域の可能性を開発する

(出所) 公立大学協会ホームページ (<http://www.kodaikyo.org/>)

2. 大学と地域との連携について

	機能	得意分野の例	機能の内容
L	LINK 地域の価値をつなげる	地域政策系 環境系 社会科学系	地域内、地域間にある価値・知恵をつなぎ、持続可能な社会をつくる
E	ENHANCE 地域の財産を発展させる	芸術系 人文系 農学系	それぞれの地域が有する財産や価値を育て、さらに飛躍させる
A	ASSURE 地域のいのちを守る	医歯薬系 看護医療系 福祉系、栄養系	地域の命を守るためのsafety netをしっかりと確保する
D	DEVELOP 地域の可能性を開発する	情報系 理工学系 国際系	これまで地域に存在しなかった新たな価値を創造し、地域を開発する

(出所) 公立大学協会ホームページ (<http://www.kodaikyo.org/>)

3. 大学のないまちとの連携事例

【事例】福知山公立大学

- ・開学 : 2016年～(私立大学としては2000年)
- ・研究科・学部学科 : 1研究科、2学部3学科
(地域情報学研究科、地域経営学部(地域経営学科・医療福祉経営学科)、情報学部)
- ・教員数 : 約45名(学長除く)
- ・学生数 : 学部生860名+大学院生15名=875名
- ・設置者 : 福知山市

【地域系学部】

大学名	学部学科名	設置自治体
青森公立大学	経営経済学部地域みらい学科	青森市
岩手県立大学	総合政策学部	岩手県
宮城大学	事業構想学部地域創生学類	宮城県
高崎経済大学	地域政策学部	高崎市
東京農工大学	都市環境学部観光科学科	東京都
山梨県立大学	国際政策学部総合政策学科	山梨県
長野県立大学	グローバルマネジメント学部・公共経営コース	長野県
静岡文化芸術大学	文化政策学部文化政策学科	静岡県
京都府立大学	公共政策部公共政策学科	京都府
福知山公立大学	地域経営学部	福知山市
芸術文化観光専門職大学	芸術文化・観光学部	兵庫県
奈良県立大学	地域創造学部	奈良県
福山市立大学	都市経営学部	福山市
鳥取県立大学	地域政策学部	鳥取県
北九州国立大学	地域創生学群	北九州市
長崎県立大学	地域創造学部	長崎県
熊本県立大学	総合管理学部	熊本県
名桜大学	国際学群観光産業専攻	北部広域市町村圏事務組合

(出所) 中田英「観光振興と公立大学—期待される役割と可能性—」『観光文化』260号、日本交通公社、4-8頁、2021より筆者加筆

3. 大学のないまちとの連携事例

【私立大学の公立化】

- ・高知工科大学(2009年)
- ・静岡文化芸術大学(2010年)
- ・名城大学(2010年)
- ・公立鳥取環境大学(2012年)
- ・長岡造形大学(2014年)
- ・山陽小野田市立山口東京理科大学(2016年)、
- ・福知山公立大学(2016年)
- ・長野大学(2017年)
- ・公立諏訪東京理科大学(2019年)
- ・公立小松大学(2019年)
- ・公立千歳科学技術大学(2019年)
- ・周南公立大学(2022年)
- ・旭川市立大学(2023年)

《検討中》

- ・長浜バイオ大学
- ・千葉科学大学
- ・九州看護福祉大学
- ・美作大学
- ・東北公益大学

地を究め 知を創る

いまここから未来を創る
未来を創る「地域創生」のチャレンジ

03 全国から集う多様な学生との出会い

小規模な大学にもかかわらず、さまざまな志を持つ 学生が全国から集まっています

このスライドは、日本の地図を中心に、全国各地から集まる多様な学生との出会いをテーマにした内容です。地図上には、香美、豊岡、新温泉、京丹波、伊福、宮津、若狭、与謝野町、舞鶴、綾部、福知山、朝来、丹波、丹波篠山などの地域が示されています。また、各地域には、その地域に所属する学生たちの写真と簡単なプロフィールが掲載されています。

3. 大学のないまちとの連携事例

このスライドは、近畿地方の地図を示し、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、高松県、愛媛県、高知県などの地域を緑色で塗りつぶして強調しています。地図上には、京丹波、伊福、宮津、若狭、舞鶴、綾部、福知山、丹波、丹波篠山などの地名が記載されています。

(出所) <https://ja.wikipedia.org/wiki/北近畿>

北近畿地域連携機構 Kita-re

北近畿地域における教育研究連携の拠点として、福知山公立大学と北近畿地域の企業、行政機関との連携を促進し、北近畿地域の発展に向けた取り組みを展開しています。

このスライドは、北近畿地域連携機構（Kita-re）の紹介ページです。上部には、同機構の活動内容や連携先に関する情報が記載されています。中央には、同機構の活動内容に関する写真が掲載されています。下部には、同機構の活動内容に関するQRコードが掲載されています。

3. 大学のないまちとの連携事例

【大学の地域貢献度調査(2021)】

- 総合90位 / 回答514大学
- 公立大12位
- 総学生数2,000人未満の大学8位

※ ①名古屋市立大学、②大阪市立大学、③北九州市立大学、④横浜市立大学、⑤兵庫県立大学、⑥滋賀県立大学、⑦大阪府立大学、⑧熊本県立大学、⑨東京都立大学、⑩島根県立大学、⑪熊本県立大学、⑫福知山公立大学

・京都5位

※ ①立命館大学、②京都文教大学、③龍谷大学、④京都大学、⑤福知山公立大学

(出所)「大学の地域貢献度調査」『日経グローバル』10.18号(2021)

3. 大学のないまちとの連携事例

【ゼミのコンセプト】

輪読 + 地域 × PBL × 1人1リーダー

↓

答えのない社会を生き抜く、
新しい政策づくりのための教育
@大学のないまち

このスライドは、大学のないまちとの連携事例として、ゼミのコンセプトを紹介しています。コンセプトは「輪読 + 地域 × PBL × 1人1リーダー」であり、その目的は「答えのない社会を生き抜く、新しい政策づくりのための教育」です。この活動は「@大学のないまち」で行われます。

地域経営演習 II (杉岡ゼミ) 紹介

「杉岡ゼミ」は、地域経営の発展を目的として、地域企業と連携して、地域課題の解決に取り組んでいます。

このスライドは、地域経営演習 II (杉岡ゼミ) の紹介ページです。上部には、同演習の目的や活動内容に関する情報が記載されています。下部には、同演習の活動内容に関する写真が掲載されています。

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト①】5大学(神戸大・岩手県大・京産大・東北公益大・本学) インゼミ@岩手



31

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト①】5大学(神戸大・岩手県大・京産大・東北公益大・本学) インゼミ@綾部



32

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト①】5大学(神戸大・岩手県大・京産大・新潟医療福祉大・本学) インゼミ@雲南市



33

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト②】中小企業×高大社連携



舞鶴の2社と連携

34

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト②】中小企業×高大社連携



京丹後の企業と連携

35

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト③】主権者教育



丹波市議会、丹波市内の3校と連携

36

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト③】主権者教育



参加いただいた議員のみなさま

- 栗本 浩太郎 議 長 (札幌市議会)
- イシノ 浩一 副 議長 (札幌市議会)
- 小池 誠二 議員 (札幌市議会)
- 佐藤 雅之 議員 (札幌市議会)
- 中野 浩子 議員 (札幌市議会)
- 坂本 浩一 議員 (札幌市議会)
- 佐藤 浩一 議員 (札幌市議会)
- 佐藤 浩一 議員 (札幌市議会)

若手の議員との対話

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト④】北部5市2町×高校生みらい会議



北部5市2町の高校生と連携

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト④】北部5市2町×高校生みらい会議



高校生の伴走をする中で学ぶ

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト④】北部5市2町×高校生みらい会議



宮津・京丹後・舞鶴で地域おこしを体験・発信



北部の移住サイトに記事はアップ

3. 大学のないまちとの連携事例

【プロジェクト⑦】舞鶴×公共施設マネジメント



4. おわりに

【ニューノーマルな地域連携のキーワード】

- ① **イベント型**: 単発
- ② **大学主導**: 特定部署、特定教員
- ③ **正課中心**: ゼミやインターンなど
- ④ **自前主義**: 一大学完結が主
- ⑤ **社会貢献型**: 一方通行(片務型)

+

オンラインの活用により地域性を拡張

4. おわりに

【シン・ノーマルな地域連携のキーワード】

- ① **事業型**: イベント+事業
- ② **学生主導**: 学生主導+大学サポート
- ③ **課外中心**: 正課+課外
- ④ **高大社連携**: 自前主義からマルチセクター主義へ
- ⑤ **地域共創型**: 社会貢献から地域共創へ

+

オンラインを活用し関係人口も巻き込む

4. おわりに

【まとめ(1)】

「関係人口は何人増えたという「量」を目指すのではなく、「どのような関係性を結ぶことで、どのような地域の課題が解決するのか」という地域の「質」的な変化に力点をおくべき」

(小田切徳美/明治大学教授)

4. おわりに

【まとめ(2)】

ATI(圧倒的・当事者&楽しみ・意識)

4. おわりに

**大学発の「LX」が問われる時代
(ローカル・トランスフォーメーション)**

(出所) 受田浩之の編著『新時代LX—持続可能な地域の未来を切り拓く—』南の風社、2021

(参考) 産学連携学会 地域連携教育研究会

研究会名	活動概要	代表者
オープンイノベーションに取り組む/育成を待つ企業(大、中、小、ベンチャー)、大学、自治体、産学連携研究会等が、各機関のオープンイノベーションへの取り組みを促進(大、中、小、ベンチャー、産学連携研究会等)と連携して、オープンイノベーションシステム、政府の動き等に関する情報を提供し、オープンイノベーションの推進を図る。また、産学連携研究会等が、各機関の取り組みを促進し、オープンイノベーションの推進を図る。	産学連携研究会	藤田 隆夫
産学連携研究会(産学連携研究会)は、大学の研究課題、産学、産学連携に関する情報を提供し、産学連携研究会等が、各機関の取り組みを促進し、オープンイノベーションの推進を図る。	産学連携研究会	藤田 隆夫
産学連携研究会(産学連携研究会)は、大学の研究課題、産学、産学連携に関する情報を提供し、産学連携研究会等が、各機関の取り組みを促進し、オープンイノベーションの推進を図る。	産学連携研究会	藤田 隆夫
産学連携研究会(産学連携研究会)は、大学の研究課題、産学、産学連携に関する情報を提供し、産学連携研究会等が、各機関の取り組みを促進し、オープンイノベーションの推進を図る。	産学連携研究会	藤田 隆夫
産学連携研究会(産学連携研究会)は、大学の研究課題、産学、産学連携に関する情報を提供し、産学連携研究会等が、各機関の取り組みを促進し、オープンイノベーションの推進を図る。	産学連携研究会	藤田 隆夫



連絡先

杉岡 秀紀

公立大学法人 福知山公立大学 地域経営学部 准教授
 大阪公立大学大学院都市経営研究科 非常勤講師(兼任)
 島根県立大学地域政策学部 非常勤講師(兼任)
 総務省主権者教育アドバイザー
 厚生労働省地域雇用活性化推進事業地域支援アドバイザー
 自治体学会評議員・理事・企画部会長
 産学連携学会関西・中四国支部幹事、学術誌委員会委員

(E-mail) sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp

杉岡秀紀(福知山公立大学)